

第34回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

C.都市の再興・まちづくり

【HP 掲載No.E05/A06】

発表No.	E 05
タイトル	ウォークアブルな水戸まちなかに向けたストリートサインの実験と検証
所属・名前	株式会社日本設計 中山 佳子 茨城大学 平田 輝満 水戸市 加藤 久人
キーワード	① ウォークアブルシティ ② 歩車共存のストリートデザイン ③ 官民連携まちづくり
<p>近年、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指す「まちなかウォークアブル推進プログラム」が都市再生政策として位置付けられ、特に地方都市では空洞化対策の切り札としても効果が期待されている。茨城県水戸市の中心市街地「水戸まちなか」も例外ではなく、官民構成員から成るまちづくり協議会により、車から人中心の都市空間再編にむけたウォークアブル関連事業が実施されている。</p> <p>21年10月、未来ビジョン案の妥当性を検証する試行実験「水戸まちなかりビング作戦」の会場計画の一環として、道幅の狭い生活道路を対象に、仮設のストリートサイン設置により歩車共存を図る実験と検証を行った。</p> <p>本研究では、有機的な官民連携体制による検討プロセスとともに、映像解析 AI システム等の先端技術も取り入れた効果検証を報告。考察を通じ、「安心して歩ける」「歩いて楽しい」ストリートの実現にむけた、歩車共存デザインの示唆を得ることを目的とする。</p>	